

大地 (1930)

ZEMLYA

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ソ連

色彩 B&W

時間 90分

初公開日 1931/07

公開情報 劇場公開

【解説】

創成期のソヴィエト映画の担い手として、セルゲイ・M・エイゼンシュテイン、フセヴォロド・プロドフキンと並ぶA・ドヴジェンコの代表作。旧地主の力がいまだ強いながらも、集団農業コルホーズが進められつつあったウクライナの僻村に、待望のトラクターがやってくる。跨がるは村民の人望も厚い青年ワシリー。彼は旧地主の息子コマにとっては癪な存在だった。ある麗らかな晩、許婚ナターラと語らっての帰り、ワシリーは何者かによって射殺される。彼の葬儀はそのまま、その理想を継承していこうという決起集会に変わるが……。監督自身後に、“筋書き自体に興味はなかった”と語っているように、注目すべきは力強い映像の構築力こそ。いま見れば、いかにもプロレタリア映画然としたところも多々あるのに、本国では公開当時、“反革命的”の烙印を押されたという。

【クレジット】

監督 アレクサンドル・ドヴジェンコ Aleksandr Dovzhenko

脚本 アレクサンドル・ドヴジェンコ Aleksandr Dovzhenko

撮影 D・デムーツキ

出演 セミヨーン・スヴァシエンコ

ユーリア・ソーンツェワ Yuliya Solntseva

ステパン・ジュクラート Stepan Shkurat